

つくば市 周辺 8 市街地の特徴

2019年3月 つくば市 都市計画部 周辺市街地振興室

北条市街地の特徴

北条市街地の概要

旧筑波町の中心である北条市街地は、江戸時代には筑波山参拝の門前町として栄え、今でもその歴史を感じさせる街並みが残っており、東西に長く伸びる商店街が特徴です。北条街づくり振興会を中心に、筑波大学や筑波高校の学生たちによる地域活動が活発であり、季節毎に年4回行われる青空市「北条市」や筑波北条米からできたもちもちスイーツ「北条米スクリーム」、国登録有形文化財「旧矢中邸」の保存・活用（他3つの国登録有形文化財が存在）など、様々な活動が行われています。また、国道125号をはじめとして、複数の県道が集まる交通結節点であるほか、全長40kmに及ぶ自転車道「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が市街地のすぐ南側を通っている。

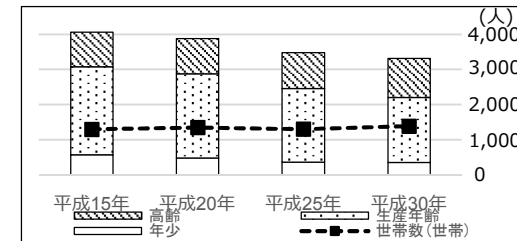
周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移（平成30年10月時点）

総人口は減少傾向にありますが、高齢層は増加しています。世帯数に増減の波がある点が特徴的です。

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	
人口(人)	4,062	3,886	3,485	3,318	
年齢階層別(人)	年少	568	479	363	356
	生産年齢	2,510	2,401	2,097	1,845
	高齢	984	1,006	1,025	1,117
世帯数(世帯)	1,300	1,348	1,305	1,389	



北条市街地のイベント（一例）

季節	イベント名（一部抜粋）
春	<ul style="list-style-type: none"> ゆげゆげ、筑波の乙女道 北条大池の桜まつり・北条市
夏	<ul style="list-style-type: none"> 北条祇園祭・北条市 多気太郎万灯会
秋	<ul style="list-style-type: none"> つくば物語・北条市
冬	<ul style="list-style-type: none"> 北条市



① 宮本家店蔵



② 北条大池



③ つくば霞ヶ浦りんりんロード

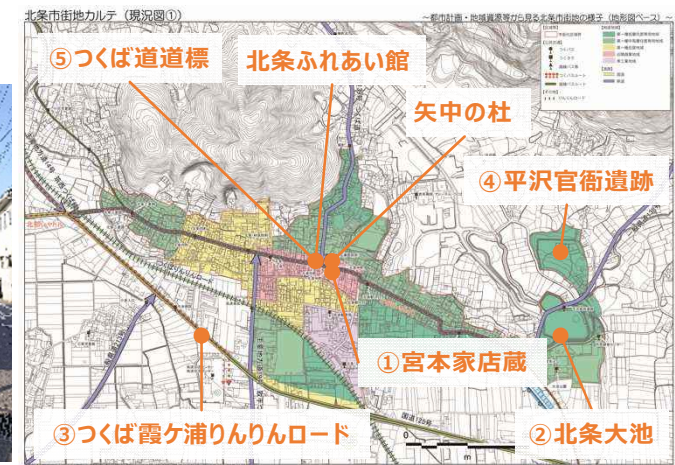


④ 平沢官衙遺跡



⑤ つくば道道標

北条市街地の資源位置図



北条市街地の特徴

北条市街地の概要

勉強会の歩み（住民全体のまちづくりにむけて）

周辺市街地振興をテーマとする勉強会（地域の対話・協働の場）を各市街地で行っています。勉強会では「市街地カルテ」を用いたワークショップを通して、地域振興の方向性を検討し、以下の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。



地域が目指すまちづくり

ゆったり住みたい街・北条

- ・ 廃校（旧北条小・旧筑波東中）を地域活性化資源として活用する
（例 漫画図書館・コミュニティ施設・サイクリスト拠点など）
- ・ 旧筑波東中の活用を機に筑波山麓地域全体で広域的に連携したまちづくりを展開する
- ・ 北条市の開催を継続し、発展させる
- ・ 来訪者をもてなす機能を整える（例 公衆トイレの整備など）

これまでの勉強会の歩み（計3回の勉強会を実施）

- 周辺市街地合同勉強会vol.1（H30/9/29(土)13:30～）
ワークショップ形式で地域資源の再発見し、それらを活かした地域振興のアイデアを出し合いました。
- ・第2回勉強会（H30/12/10(月)17:30～）
これまでの、地域活性化の取組の振り返りと今後取り組んでいきたいことを話し合いました。
- ・周辺市街地まちづくり合同勉強会vol.2「つくば地域会議R8」（H31/1/26(土)13:30～）
ワークショップ形式で、これまでの成果をもとに、北条市街地の「地域が目指すまちづくり」を整理し、他の市街地に向けて発表を行いました。

今、取り組んでいること

年4回の北条市／宮清大蔵ホール（江戸時代の蔵を改修）でコンサートや落語など「北条米スクリーム」の販売（商標登録済み）／矢中の杜（旧矢中邸）の開放・イベント実施（毎週土曜）／多気太郎万灯会／商店街を中心に季節の花を設置（竜巻被害以降実施）／スローマーケット など

新しく始めたいこと

- ・ 矢中の杜を日曜祝日も公開する
- ・ 古民家を活用した民泊／昭和4年ごろの建築物である土田邸（旧医院）の活用
- ・ ロケ地としての活用を推進（地域のPRと資金確保） など

小田市街地の特徴

小田市街地の概要

小田の歴史は古く、市街地は12世紀末に築城された小田城の跡地周辺に形成されています。歴史的資源のほかに、国道125号を初めとして、複数の県道が集まる交通結節点であるほか、旧筑波鉄道廃線を活用した全長40 kmに及ぶ自転車道「つくばりんりんロード」や、登山人気が高まっている宝篋山（小田山）の登山口などがあり観光客が多く訪れます。小田城跡歴史広場では年間を通してイベントが行われています。また、古民家を活用して活動しているNPOなど、地域活動も盛んです。

小田市街地では廃校となった小田小学校の活用を検討しており、サイクリストや登山客などの観光客向けの機能や、地域住民の交流拠点としての活用が期待されています。

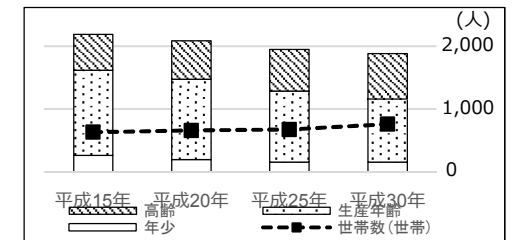
周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移（平成30年10月時点）

人口は減少していますが、世帯数は増加しています。平成25年から平成30年にかけては年少人口がほぼ横ばいとなっています。

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	
人口(人)	2,195	2,089	1,955	1,887	
年齢階層別(人)	年少	264	200	155	157
	生産年齢	1,358	1,279	1,135	1,008
	高齢	573	610	665	722
世帯数(世帯)	634	661	677	762	



小田市街地のイベント（一例）

季節	イベント名（一部抜粋）
春	・ひな祭り(地区から寄付されたもの) ・親衛隊写真展・田植え体験 ・まがいぶつ・宝篋山スタンプラリー
夏	・田植え体験・祇園祭・常世の國まつり ・天神万灯の祭り ・御不動様（8月28日）
秋	・能に親しむ会・宝篋山スタンプラリー・夜景を見る会・竹取物語・筑波山麓秋祭り ・常世のみの市・護摩焚き ・秋の祭礼(文化祭・七五三) ・児童館祭り(県民の日)
冬	・宝篋山の上(初日の出)・どんど焼き・御不動様（1月28日）・しもつかれ試食会 ・小田歴史探訪ツアー



① 旧小田小学校



② 宝篋山



③ つくばりんりんロード



④ 小田城跡歴史ひろば

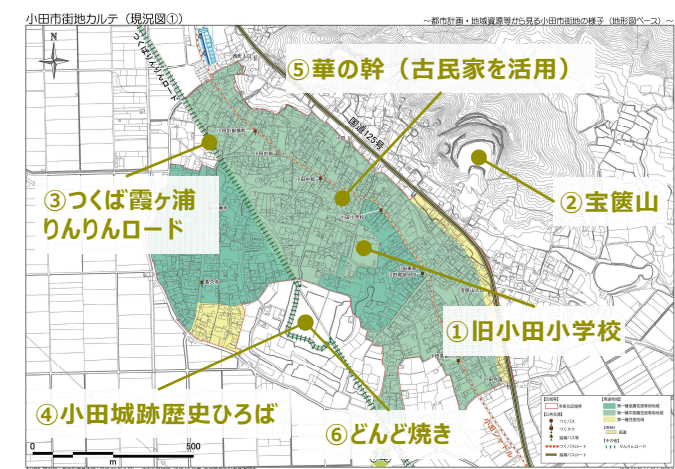


⑤ 華の幹（古民家を活用）



⑥ どんど焼き

小田市街地の資源位置図



勉強会の歩み（住民全体のまちづくりにむけて）

周辺市街地振興をテーマとする勉強会（地域の対話・協働の場）を各市街地で行っています。勉強会では「市街地カルテ」を用いたワークショップを通して、地域振興の方向性を検討し、以下の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。



地域が目指すまちづくり

宝篋山（小田山）と小田城が人を結びつけ、 住みたくなる街

- ・ 地域住民が旧小田小学校を活用する（地域住民の交流の場として）
- ・ 観光客に向けて旧小田小学校を活用する（登山客・サイクリストなどの休憩スペースなど）
- ・ 観光誘客のために民泊・古民家レストラン・小田の食を提供する
- ・ 外国人にも対応した案内板など、おもてなしの整備・教育を進める
- ・ 小田のPR・情報発信を強化する（PRイベントの開催、紙媒体・SNSを活用）

勉強会における検討経過（計7回の勉強会を開催）

勉強会は、地域で活動するNPO団体、まちづくりに関心のある若者、地元区長などを中心に開催しています。

宝篋山への登山客や、りんりんロードを通過するサイクリストなど、来訪者はあるものの地域への経済効果が薄いことが課題としてあげられています。そこで、来訪客が市街地内に足を運ぶような工夫について検討してきました。

そのひとつとして、廃校である旧小田小学校の一部教室を地域住民で活用し、登山客やサイクリスト向けに開放すること、コミュニティの拠点として地域自身が活用することを目指しています。（2019年度は、旧小田小学校の一部改修工事を予定）

【勉強会で出たその他のアイデア】

- ・ 宝篋山から筑波山へのトレッキングロードをつくりたい
- ・ 最弱戦国武将“小田氏治”を核とした文化・歴史の聖地にしたい
- ・ 居酒屋など夜の交流の場をつくりたい

【小田氏治とは・・・？】

戦国時代から安土桃山時代にかけての戦国武将。本姓は藤原氏で小田氏最後の15代当主。たびたび戦に敗北し、居城を奪われたため「戦国最弱」と評されることや、敗北しても生き延び、居城を奪還していたことから「常陸の不死鳥」などと評されることがある。

大曽根市街地の特徴

大曽根市街地の概要

大曽根市街地はつくば市の中央近く、古くからの街道であった県道128号線沿いに形成された市街地です。つくばエクスプレスつくば駅からバスで15分のところに位置しており、中心市街地とのアクセスがよい地区です。自然が豊かで田園風景や鹿島台から見る筑波山などの自然景観に恵まれているほか、年間を通して神社に関連する行事が多いという特徴があります。また地区内にある大曽根小学校の周辺には子育て世代の入居も目立っています。

また、比較的新しく整備された筑穂や花畑といった地区と隣接しており、それらの地域との連携、新旧住民の交流が期待されています。

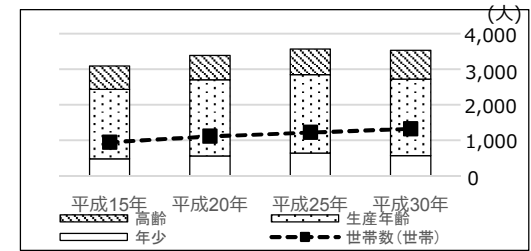
周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移 (平成30年10月時点)

世帯数は増加していますが、人口は平成20年以降ほぼ横ばいとなっています。年少人口と高齢人口の割合に近い点が特徴的です

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	
人口(人)	3,095	3,399	3,574	3,542	
年齢階層別(人)	年少	483	564	641	569
	生産年齢	1,960	2,147	2,209	2,162
	高齢	652	688	724	807
世帯数(世帯)	948	1,115	1,224	1,328	

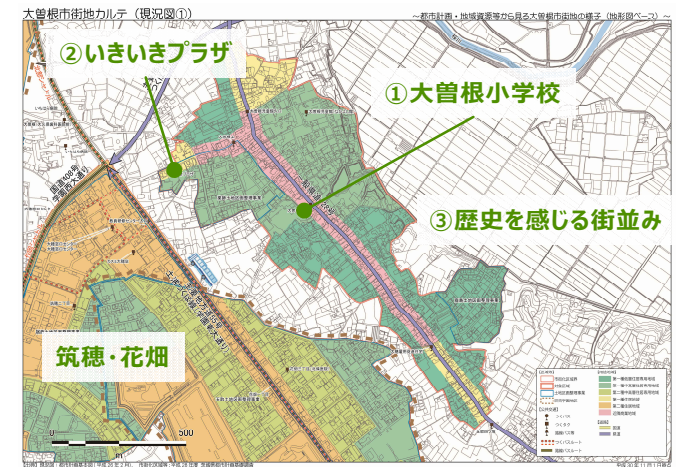


大曽根市街地のイベント (一例)

季節	イベント名 (一部抜粋)
春	・薬師堂のはなまつり (お釈迦様)
夏	・夏祭り (祇園祭) ・愛宕様
秋	・万灯祭・薬師堂のお祭り・ボウリング大会 (大曽根下) ・文殊堂 ・鹿島神社の祭礼 (七五三)
冬	・年越し (千光寺の成田山) ・どんど焼き・護摩焚き・お稻荷様・豆まき

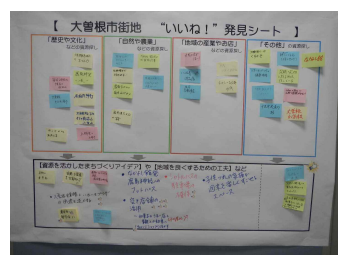


大曽根市街地の資源位置図



勉強会の歩み（住民全体のまちづくりにむけて）

周辺市街地振興をテーマとする勉強会（地域の対話・協働の場）を各市街地で行っています。勉強会では「市街地カルテ」を用いたワークショップを通して、地域振興の方向性を検討し、以下の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。



地域が目指すまちづくり

新しいまちと歴史を未来につなぐまち大曽根

- ・ 大曽根（歴史ある地域）と花畑（比較的新しい地域）の地域間の交流を促進する
- ・ 筑穂・花畑と連携してつくば市北部の交通拠点を形成する
- ・ 筑穂や花畑を含めた地域マップをつくり、相互理解を深める
- ・ 大曽根と花畑の居住世代の多様性を活かした地域活動を展開する（例 大曽根の高齢者が花畑から通学する子供たちを見守る など）

勉強会における検討経過（計3回の勉強会を実施）

- ・ 周辺市街地合同勉強会vol.1（H30/9/29(土)13:30~）
ワークショップ形式で地域資源の再発見し、それらを活かした地域振興のアイデアを出し合いました。
- ・ 第2回勉強会（H30/11/7(水)14:00~）
合同勉強会Vol.1で出された意見をもとに、地域資源・魅力を追加し、それらを活用した地域振興のアイデアを出し合いました。
- ・ 周辺市街地合同勉強会vol.2「つくば地域会議R8」（H31/1/26(土)13:30~）
ワークショップ形式で、これまでの成果をもとに、大曽根市街地の「地域が目指すまちづくり」を整理し、他の市街地に向けて発表を行いました。

【勉強会で出たその他のアイデア】

- ・ 筑穂・花畑地区まで含めたマップを作成し、地域の情報や資源を再確認したい。
- ・ 地域の交流拠点を作りたい
- ・ 朝市などを開き、地域の農産物を販売したい
- ・ 近隣エリアには、子育て世代が多いため、子育て世代をターゲットとしたまちづくりを進めると良いのではないかと
- ・ 地域の子どもに愛着心を持ってもらうため、地域のお祭りや食べ物などを知ってもらえる取組を展開したい

吉沼市街地の特徴

吉沼市街地の概要

つくば市の西部、下妻市との市境近くに形成された市街地で、旧家住宅や神社仏閣など歴史ある建物が点在する地域です。市街地の西を流れる小貝川周辺はホタルが生息していたり、稲作が盛んであったりと自然に恵まれた地域でもあります。吉沼祇園祭が盛大で、電飾を付けた神輿も登場します。

また、市街地内には霧筑波の蔵元である「浦里酒造」や生どら焼きが有名な「宝集屋」、唐揚げで有名な「ミートショップいちむら」、「つくばヤーコン」など地域の名物が存在しています。

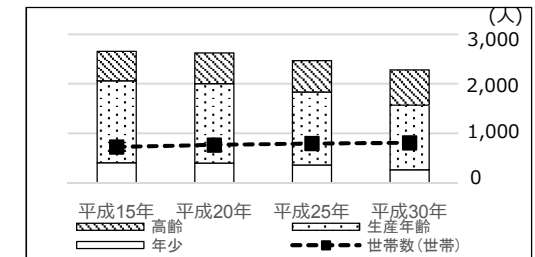
周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移（平成30年10月時点）

平成20年以降の人口の減少が目立ちますが、年齢別では高齢層のみ増加しています。また世帯数も増加傾向にあります。

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	
人口(人)	2,657	2,624	2,470	2,285	
年齢階層別(人)	年少	406	401	359	266
	生産年齢	1,658	1,605	1,476	1,304
	高齢	593	618	635	715
世帯数(世帯)	727	767	797	811	



吉沼市街地のイベント（一例）

季節	イベント
春	・総会（各地区）・お釈迦様（吉沼保育園） ・薬師様（大坪地区） ・吉沼春（桜）祭り
夏	・吉沼祇園祭・まつりつくば（神輿が出張）
秋	・土盛り・市民文化祭（吉沼会場）
冬	・初搾り（霧筑波）・元朝参り・節分（八幡神社） ・初午（しもつかれ）・土盛り（愛宕神社）



吉沼祇園祭

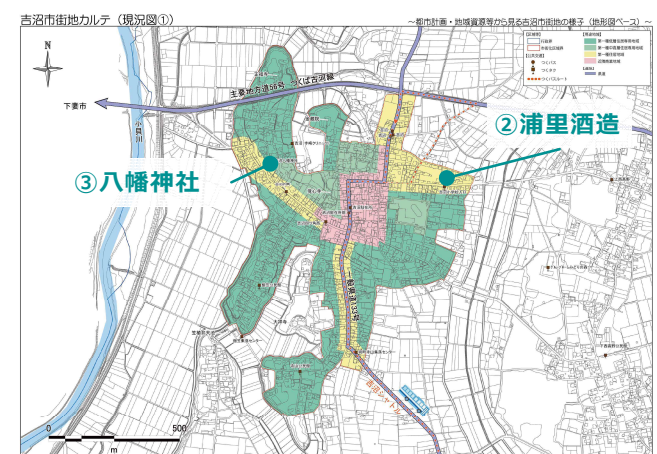


浦里酒造



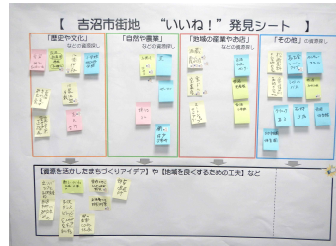
八幡神社

吉沼市街地の資源位置図



勉強会の歩み（住民全体のまちづくりにむけて）

周辺市街地振興をテーマとする勉強会（地域の対話・協働の場）を各市街地で行っています。勉強会では「市街地カルテ」を用いたワークショップを通して、地域振興の方向性を検討し、以下の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。



地域が目指すまちづくり

吉沼ブランドの創出と発信

- 吉沼の歴史、自然、食の魅力を発見し、発信する
- 名物を活用した新イベント“酒と食の祭”を開催する
- 大学生と人材交流で相互に刺激を与え合う取組を行う

勉強会における検討経過（計3回の勉強会を開催）

- 周辺市街地合同勉強会vol.1（H30/9/29(土)13:30~）
ワークショップ形式で地域資源の再発見し、それらを活かした地域振興のアイデアを出し合いました。
- 第2回勉強会（H30/11/12(月)14:00~）
合同勉強会Vol.1で出された意見をもとに、地域資源・魅力を追加し、それらを活用した地域振興のアイデアを出し合いました。
- 周辺市街地合同勉強会vol.2「つくば地域会議R8」（H31/1/26(土)13:30~）
ワークショップ形式で、これまでの成果をもとに、吉沼市街地の「地域が目指すまちづくり」を整理し、他の市街地に向けて発表を行いました。

【勉強会で出たその他のアイデア】

- 酒と食を活かしたイベントを開催し、活気を呼び込みたい
- 新しいイベント（神輿や御雛子等）を企画し、あわせて地元の農産物を販売し、吉沼の歴史を紹介・展示する
- 大学生とまち歩きを行うなど、大学生と連携したまちづくり
- 地域の交流拠点をつくる
- HPの立ち上げやSNSを通じた情報発信
- 尼さんが教える「般若心経」、「尼さんが教える釈迦の教え」等
- 学校を中心とした地域防災やお年寄りの防災対策と地域振興を結びつける

上郷市街地の特徴

上郷市街地の概要

上郷市街地はつくば市の西部、小貝川近くに形成された市街地で、かつては養蚕業で栄えていた歴史があります。市街地内には931年に建立された春日神社があるほか、市街地南方の金村別雷神社とのつながりもある地域で、歴史や文化の蓄積があります。また酵素イチゴ、イチジクの栽培など生産者がいることや養殖チョウザメが味わえる寿司屋があること、自然豊かな川口公園が存在することなどが特徴的です。

これらの小貝川流域で形成された文化・産業を活かしたまちづくりが期待されています。

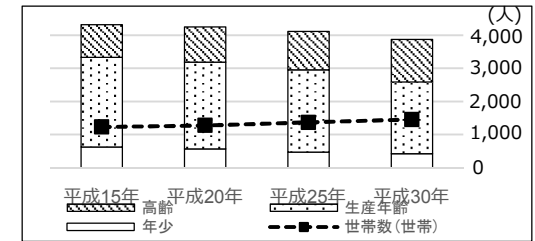
周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移（平成30年10月時点）

平成20年以降の人口の減少が目立ちますが、年齢別では高齢層のみ増加しています。また世帯数も増加傾向にあります。

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	
人口(人)	4,326	4,255	4,117	3,878	
年齢階層別(人)	年少	626	570	470	428
	生産年齢	2,710	2,618	2,485	2,166
	高齢	990	1,067	1,162	1,284
世帯数(世帯)	1,233	1,278	1,371	1,460	



上郷市街地のイベント（一例）

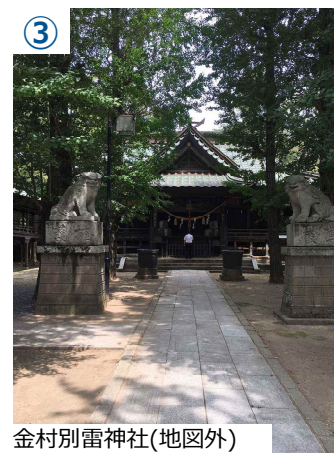
季節	イベント名（一部抜粋）
春	・金村別雷神社春例大祭
夏	・上郷の祇園祭・手子生の盆踊り
秋	・ぼんぼん突き(角内)・金村別雷神社秋例大祭
冬	・初詣（金村別雷神社）・親子たこあげ大会 ・ありがとう集会（上郷小学校） ・つくば あつまれちびっこin豊里の会



小貝川

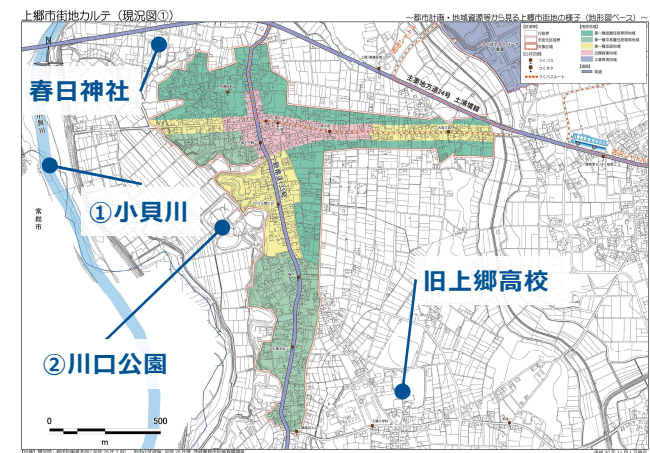


川口公園



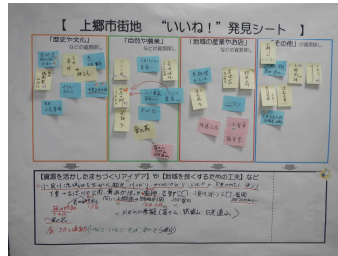
金村別雷神社(地図外)

上郷市街地の資源位置図



勉強会の歩み（住民全体のまちづくりにむけて）

周辺市街地振興をテーマとする勉強会（地域の対話・協働の場）を各市街地で行っています。勉強会では「市街地カルテ」を用いたワークショップを通して、地域振興の方向性を検討し、以下の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。



地域が目指すまちづくり

小貝川沿いの自然・歴史資源を結びつけた上郷のまち
～いのち・食文化のまち～

- ・ 上郷全体で賑わいを目指した祭り、イベント等を構築する
- ・ 歴史資源を巡るマップをつくり、地域を再認識する
- ・ 八坂神社・金村別雷神社と連携し、皆が参加できる大規模な祭りを実施する
- ・ 旧上郷高校を活動拠点として、地元の食材を使った「食育」をする

勉強会における検討経過（計3回の勉強会を実施）

- ・ 周辺市街地合同勉強会vol.1（H30/9/29(土)13:30～）
ワークショップ形式で地域資源の再発見し、それらを活かした地域振興のアイデアを出し合いました。
- ・ 第2回勉強会（H30/11/16(金)14:00～）
合同勉強会Vol.1で出された意見をもとに、地域資源・魅力を追加し、それらを活用した地域振興のアイデアを出し合いました。
- ・ 周辺市街地合同勉強会vol.2「つくば地域会議R8」（H31/1/26(土)13:30～）
ワークショップ形式で、これまでの成果をもとに、上郷市街地の「地域が目指す地域づくり」を整理し、他の市街地に向けて発表を行いました。

【勉強会で出たその他のアイデア】

- ・ 小貝川沿いに存在する資源を結びつけ、それらを周遊するルートを作成する
- ・ 歴史資源を巡るマップをつくる
- ・ イチジクなど地元産の農産物を販売する
- ・ 神社や旧上郷高校をドラマ・映画などのロケ地として活用してもらう
- ・ PTAやボランティアなど、地域活動が活発な点を活かし、子どもが地域に愛着をもつようなまちづくりをする
- ・ 小貝川沿いをサイクリングコースとしてPRする
- ・ 金村別雷神社にある白木の神輿や田倉の三匹獅子（親子三代の獅子頭）などを復活させる

栄市街地の特徴

栄市街地の概要

つくば市の東部に位置する栄市街地は、つくばエクスプレスつくば駅に比較的近い地域ですが、もともとは土器屋（かわらけや）という集落であり、屋号が残っていたり、わら細工や竹細工、和菓子など様々な技術を有する職人がいたり、伝統を感じられる地域となっています。

それらの伝統的な技術や、歴史的な建造物である「長屋門」、平将門の娘の尼寺である「東福寺」、慶応元年創業の和菓子店「相野屋」に残る木彫りの菓子型、1トン近い重量を誇る手づくり神輿など、地域内に残る歴史や伝統を活かしたまちづくりが期待されています。

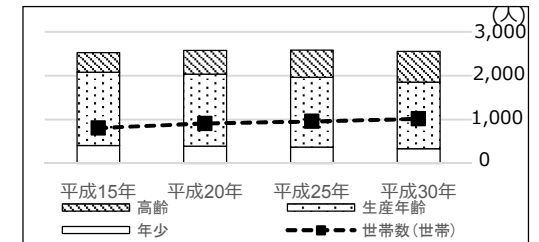
周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移 (平成30年10月時点)

人口はほぼ横ばいですが、世帯数が増加しています。また年齢層別にみると高齢層のみ増加しています。

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	
人口(人)	2,527	2,580	2,592	2,558	
年齢階層別(人)	年少	405	389	371	336
	生産年齢	1,676	1,649	1,595	1,519
	高齢	446	542	626	703
世帯数(世帯)	807	909	958	1,016	

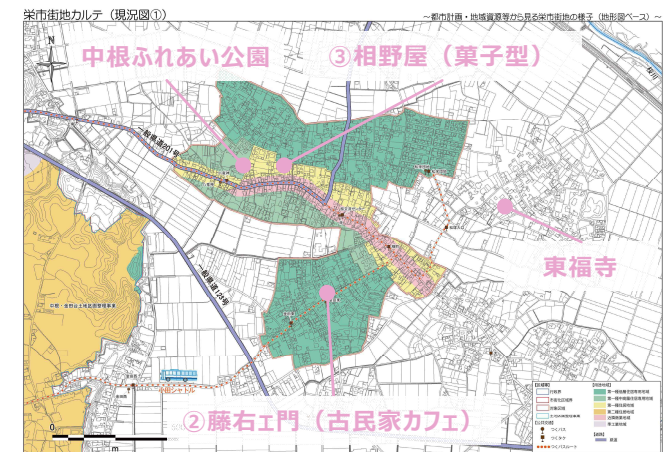


栄市街地のイベント (一例)

季節	イベント名 (一部抜粋)
春	・東福寺(桜川八十八ヶ所巡拝、幼稚園生と一緒に練り歩く)・弘法大師の桜祭・花見会(寺など)
夏	・夏祭り(栄市街地：6地区)
秋	・稲刈り
冬	・神社祭(神明神社)・祇園寺(初詣) ・八竜神社(流鏝馬：弓矢作り)

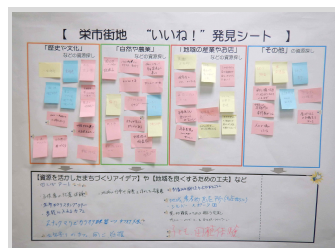


栄市街地の資源位置図



勉強会の歩み（住民全体のまちづくりにむけて）

周辺市街地振興をテーマとする勉強会（地域の対話・協働の場）を各市街地で行っています。勉強会では「市街地カルテ」を用いたワークショップを通して、地域振興の方向性を検討し、以下の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。



地域が目指すまちづくり

伝統を活かした交流

- ・ 歴史ある栄市街地の良さを再認識する
（例 まち歩きなどを通じて）
- ・ 伝統ある打ち菓子などの技術を活用し、多世代交流を図る
（例 見学・体験での学習など）
- ・ 歴史ある建築物である長屋門を交流の場として活用する

勉強会における検討経過（計3回の勉強会を実施）

- ・ 周辺市街地合同勉強会vol.1（H30/9/29(土)13:30～）
ワークショップ形式で地域資源の再発見し、それらを活かした地域振興のアイデアを出し合いました。
- ・ 第2回勉強会（H30/12/10(月)17:30～）
合同勉強会Vol.1で出された意見をもとに、地域資源・魅力を追加し、それらを活用した地域振興のアイデアを出し合いました。
- ・ 周辺市街地合同勉強会vol.2「つくば地域会議R8」
（H31/1/26(土)13:30～）
ワークショップ形式で、これまでの成果をもとに、栄市街地の「地域が目指すまちづくり」を整理し、他の市街地に向けて発表を行いました。

【勉強会で出たその他のアイデア】

- ・ 土器屋（かわらけや）の歴史を巡る／栄の歴史をまとめた冊子をつくる
（栄の歴史を整理する）
- ・ 地域の交流拠点をつくる
- ・ 複数地域合同で手造りの神輿を披露したり、担ぐ体験ができる機会をつくる
- ・ 昔のようにしめ飾りの講習会のような催しを行う
- ・ サイクルスポットなど寄り道ができるところ（きっかけ）をつくり、連携させる
- ・ 地区名の看板をつくる
- ・ サイクリスト向けのトイレを整備する
- ・ わらしべ長者をして地域内で交流する機会を生む
- ・ 打ち菓子の木型をスタンプラリーのスタンプとして使う など

谷田部市街地の特徴

谷田部市街地の概要

旧谷田部町の中心として発展してきた谷田部市街地は、従来生活拠点としての役割を担ってきました。また、飯塚伊賀七(江戸時代の科学者)をはじめ、歴史や伝統、文化をはじめとする優れた資源があるとともに、様々な分野で地域を盛り上げようと活動している住民や団体もあり、秋には谷田部市街地のオータムフェア(秋祭り)等のイベントを実施しています。

さらに、周囲には常磐自動車道の谷田部ICがあり、交通利便性が高く、みどりの地区(つくばエクスプレス沿線)の開発も進み、人口が増加しています。

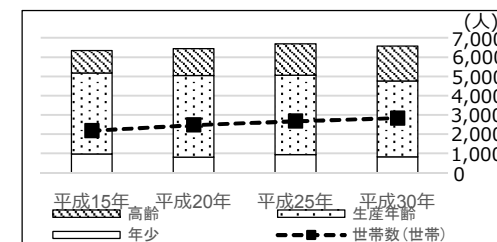
周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移 (平成30年10月時点)

世帯数は増加していますが、人口は平成20年以降はほぼ横ばいとなっています。年齢別では高齢層の増加が目立っています。

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	
人口(人)	6,356	6,645	6,700	6,590	
年齢階層別(人)	年少	980	818	943	825
	生産年齢	4,213	4,233	4,125	3,953
	高齢	1,163	1,394	1,632	1,812
世帯数(世帯)	2,182	2,483	2,678	2,840	



谷田部市街地のイベント (一例)

季節	イベント名 (一部抜粋)
春	・桜まつり(八坂神社)・花まつり(お釈迦様)・大六天祭
夏	・内町祇園祭
秋	・秋祭り(谷田部市街地のオータムフェア)③
冬	・どろ市・元旦祭・凧揚げ・どんど焼き・節分(八坂神社)・初午



① 五角堂 (伊賀七による設計)

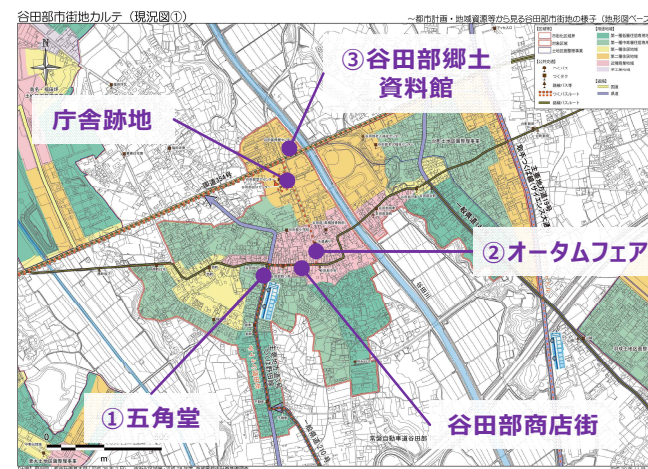


② 谷田部市街地のオータムフェア (H30は伊賀七巡りを実施)



③ 谷田部郷土資料館 (伊賀七が発明した和時計)

谷田部市街地の資源位置図

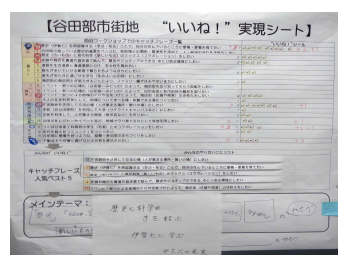


谷田部市街地の特徴

谷田部市街地の概要

勉強会の歩み（住民全体のまちづくりにむけて）

周辺市街地振興をテーマとする勉強会（地域の対話・協働の場）を各市街地で行っています。勉強会では「市街地カルテ」を用いたワークショップを通して、地域振興の方向性を検討し、以下の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。



勉強会における検討経過（計6回の勉強会を実施）

- ・第1回勉強会（H30/2/20(火)16:00～）
地域のプレイヤーの顔合わせ、意見交換をしました。
- ・第2回勉強会（H30/5/25(金)15:00～）
地域の資源・魅力を再発見、まちづくりのアイデア出しを実施しました。
- ・第3回勉強会（H30/7/20(金)13:30～）
谷田部が目指す地域振興の方向性をキャッチフレーズに整理しました。
- ・周辺市街地合同勉強会vol.1（H30/9/29(土)13:30～）
第3回で整理したキャッチフレーズから5つのテーマを選定しました。
- ・第5回勉強会（H30/11/13(火)14:00～）
5つのテーマを実現するための具体的な取組を検討しました。
- ・周辺市街地合同勉強会vol.2「つくば地域会議R8」（H31/1/26(土)13:30～）
谷田部市街地の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。

地域が目指すまちづくり

歴史と科学が手を結ぶ 伊賀七に学ぶ やたべの未来

- ・ 飯塚伊賀七を谷田部のシンボルにしていく（キャラクター化なども）
- ・ 「伊賀七座しばいや」の活動を通じて飯塚伊賀七の認知度を向上させる
- ・ 地域の交流拠点として商店街の空き店舗を活用する
- ・ 行事・祭り・凧揚げ・運動会などイベントを通して多世代交流を図る

【勉強会で出たその他のアイデア】

- ・伊賀七巡りの定期開催（ツアーガイドの確保・育成）
- ・商店街に拠点づくり
- ・学生とコラボしたロボットコンテストの開催
- ・和時計や不動松並木の復活
- ・伊賀七を使った谷田部のPR・周知 など

【飯塚伊賀七とは...？】

江戸時代後期の発明家。谷田部の地に生まれ、生涯を谷田部で過ごした。

「谷田部にすぎたるもの3つあり、不動並木に広瀬周度、飯塚伊賀七」と呼ばれ、谷田部の象徴的な存在であった。からくりや和時計を数多く製作したほか、飛行実験や五角堂の設計など多方面で活躍したため、“からくり伊賀七”の異名を持つ。



高見原市街地の特徴

高見原市街地の概要

高見原市街地はつくば市の南東、牛久市に隣接し、JR常磐線牛久駅近くに位置する地域です。東京のベッドタウンとしての開発が行われ、現在も居住人口は増加傾向にあります。さまざまな職業や技能・情報などを持っている多様な人が居住しており、その多様性が貴重な地域資源と言えます。また天寶喜(あまぼうき)など、自然が残されているところもあり、野鳥などが生息しています。

生活圏は隣接する牛久市との関連が強く、市域にとらわれない広域的な視点でのまちづくりが期待されています。また、平成26年には地域住民が運営するコミュニティハウスが設置され、市街地内の憩いの場となりつつあります。

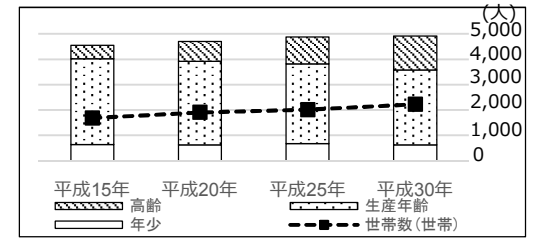
周辺市街地位置図



人口・世帯数の推移 (平成30年10月時点)

人口・世帯数ともに増加傾向にあります。生産年齢層が減少していますが、年少人口はほぼ横ばいで、高齢層が増加しています。

項目\年次	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	
人口(人)	4,561	4,702	4,881	4,928	
年齢階層別(人)	年少	642	631	682	630
	生産年齢	3,380	3,293	3,144	2,957
	高齢	539	778	1,055	1,341
世帯数(世帯)	1,688	1,906	2,014	2,228	



高見原市街地のイベント (一例)

季節	イベント名 (一部抜粋)
春	・野草を食べる会 (コミュニティハウス)
夏	・流しそめんの会 (コミュニティハウス)
秋	・荃崎夢まつり ・芋煮会 (コミュニティハウス)
冬	・ひな祭り (コミュニティハウス)



高見原市街地の資源位置図



勉強会の歩み（住民全体のまちづくりにむけて）

周辺市街地振興をテーマとする勉強会（地域の対話・協働の場）を各市街地で行っています。勉強会では「市街地カルテ」を用いたワークショップを通して、地域振興の方向性を検討し、以下の「地域が目指すまちづくり」を整理しました。



地域が目指すまちづくり

地域のつながり・連携・強化

- 地域のつながり・連携を強化する
- 町丁名に関係なく使える交流拠点を形成する
- みんなが参加できるイベントを促進する

勉強会における検討経過（計3回の勉強会を実施）

- 周辺市街地合同勉強会vol.1（H30/9/29(土)13:30～）
ワークショップ形式で地域資源の再発見し、それらを活かした地域振興のアイデアを出し合いました。
- 第2回勉強会（H30/12/14(金)14:00～）
高見原市街地における今後の地域振興の方向性について、参加者間でディスカッションを行いました。
- 周辺市街地合同勉強会vol.2「つくば地域会議R8」
（H31/1/26(土)13:30～）
ワークショップ形式で、これまでの成果をもとに、高見原市街地の「地域が目指すまちづくり」を整理し、他の市街地に向けて発表を行いました。

【勉強会で出たその他のアイデア】

- 自然が残る4丁目でバードウォッチング
- 子どもが自由に使えるようにソフトボール場を地域に開放する
- まちの掲示板等にグラウンド・施設の予定表予約状況が確認できるQRコードを導入する
- 牛久沼で親子で釣り大会をする
- ポケットファームどきどき（牛久市）との連携
- 高見原全体で行う祭りの復活／イベントを3丁目のソフトボール場で行う
- 空き店舗を活用して、地域の憩いの場をつくる
- シルバー人材を活用した空き地・空き家の維持管理 など